



全公立展での川崎北のブース 6月16日(土)パシフィック横浜にて全公立展が開催され、川崎北高校も参加しました。生徒会役員の生徒たちもお手伝いに来てくれて、新しい学校案内を多数の来場者に配付しました。

星はいつも、
北で輝いて
いる

(愛称：ほし北通信)

平成30年6月18日

川崎北高等学校広報紙

編集・発行 校長 勝股 正

3つのC チャレンジ・コンフィデンス・クリエーション (挑戦・自信・創造)

質問「2021年度から大学入試が変わりますよね。川北では何か対策していますか？」

性も問われますが、「川北のまなび」は、まさに受験で求められるそうした力も、着実に育成しています。

大学入試が、現在の高校1年生が受験する2021(平成33)年度入試から大きく変わります。大学入試センター試験の後継となる「大学入学共通テスト」が始まったり、英語外部検定試験の結果が活用されたりします。今回は、入試制度の改革への川崎北の取り組みについて、説明しましょう。

思考力・判断力・表現力を磨く授業

新しい入試制度では、知識・技能だけでなく論理的な思考力・判断力・表現力を問う問題が出題されます。川崎北では、以前から、単なる知識を暗記させるのではなく、生徒が自分の力で考えることを促す授業をすすめてきました。また、思考を深めるためにICT機器を活用した授業も盛んです。

英語4技能向上対策

英語は、これまでの「読む」「書く」に加え「聞く」「話す」も試されるようになります。川崎北では、昨年Kプラン、今年K-2

プランに基づき、英語の4技能をバランスよく育成する授業を展開しています。しかも、2021年度入試からは、高校3年4月～12月の間に受けた英語外部検定試験の点数も入試に加味する大学が出るので、それに備え、今年の1年生から、全員にGTEC(ジーテック)という英語検定試験を受検させることにしました。

主体性・多様性・協調性を育む「川北のまなび」

川崎北は、部活動・学校行事を重視しています。それらに生徒が主体的に取り組むことで、自信をつけ、次にチャレンジしていくなかで多くを学んでほしいと願っています。それが「川北のまなび」です。新しい大学入試では、受験生の主体性・多様性・協調

Kプラン、K-2プランとは
昨年からはじめた川崎北独自の英語の授業改善のための計画です。このプランに基づき、英語の先生が他の英語教育の先進校に見学に行ったり、他校の授業のうまい先生に本校に来てもらって、授業を見せてもらったりして、英語の授業方法を磨いています。ですから、これによってすぐに生徒の英語力がつくというわけではありませんが、最近英語の授業での生徒の食いつきがよくなり、英語授業に活気が出てきたと校長は感じています。昨年のKプランをバージョンアップし、今年K-2プランにしました。

北斗祭(体育祭)が行われました



梅雨入りの直前、5月31日(木)に北斗祭(体育祭)が開催されました。前日まで天候が心配されたのですが、当日は雨の降ることもなく、むしろ涼しいコンディションで体育祭ができました。写真は、校長の前で、4ブロックの団長が揃って宣誓をしているところ。5月は、神奈川県の手話月間ということで、この後、団長4人は、生徒の前で手話による自己紹介をしました。